

情報処理科・経営管理科 1年A・B・C・D組

教科名	国語	科目名	国語総合 (3単位)
使用教科書	新編 国語総合 (数研出版)	副教材等	新編国語総合 準拠ワーク (数研出版) 常用漢字ダブルクリア(尚文出版) 新総合 図説国語 (東京書籍)

1 科目のねらい(目標)

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

具体的には、総合的な言語能力を伸ばすため、「書くこと」「読むこと」に加え、「話すこと」「聞くこと」を重視する。今後ますます必要になってくるコミュニケーション能力を磨くために、論理的に意見を述べたり、相手の立場や考えを尊重して話し、口頭で表現する態度や能力を育成する。また、目的や場面に応じて適切に文で表現する能力や、的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育成する。

2 科目・授業の内容と進め方

現代文では、相手に確実に伝わるように、そして正確に読めるように、読みをしっかりと行います。また、語句の説明や漢字学習を行い、その後内容読解を行います。内容読解では、登場人物の心情や行為の背景、また作者・著者の作品に託した意図を考え、意見の発表もします。

古典では、語句の意味を確実に理解するとともに、正しい読み方を徹底して練習します。表現では、相手に確実に意志が伝わるように表現するため、演習を多く取り入れて、自分の作品を発表します。

3 学習の方法

- ・辞書を使つての意味調べや漢字練習については、家庭で学習をしましょう。
- ・作品や教師の質問、他の生徒の意見に対しては、自分の考えをしっかりと持ち、相手に自分の考えを正確に伝える訓練をしましょう。
- ・ノートは、黒板に書いてあることを写すだけでなく、自分の考えや大切だと思われることをしっかりと記録し、自分だけの参考書になるようにしてください。
- ・日頃から、読書(絵・写真のない文章)に親しみましょう。

推薦辞書 「新明解 国語辞典」 三省堂

4 課題・補習について

- ・漢字や語句については、随時小テストを行います。
- ・定期的にノート点検を行います。
- ・努力を怠っている生徒に対しては、補充授業、追試験、課題などを課します。

情報処理科・経営管理科 1年A・B・C・D組

教科名	国語	科目名	国語総合 (3単位)
-----	----	-----	------------

5 年間の学習計画

月	単元名	教材	学習の内容(ねらい)	評価方法(課題等)
4	随想(一)	「世界は一つのクラスルーム」 「立ってくる春」	・論理的な文章の展開・構成を明らかにしながら、筆者の主張を的確にとらえる。	・小テスト ・課題テスト
	表現1	「スピーチ 話し手と聞き手が共感し合える場を作ろう」	・スピーチの意義と行い方を理解し、交流を行う。	
5	古文編 入門	古文に親しもう 宇治拾遺物語 「児のそら寝」 「検非違使忠明」	・古文を学ぶ方法や意義を理解し、古文に対する親近感を持つ。 ・古文の言葉に慣れ、正しく音読し、読むための知識を得て、話の面白さを理解する。	前期中間考査
6			・基礎的な文法事項を習得し、的確に内容を読み取る。	
7	詩	「六月」 「サーカス」	・作者の着想や表現を理解する。 ・定型詩のきまりや表現技法を理解して作品を味わう。	
	表現2	「ブックトーク」 読書感想文の書き方	・あるテーマをもとに本を紹介することによって、話し方や文章の構成の仕方を学ぶ。 ・読書感想文の書き方を理解する。	
8	漢文編 入門	「漢文の海へ」 「訓読のきまり」 「格言」	・漢文に親しみ、学ぶ意義を理解する。 ・返り点について理解しながら、漢文を訓読することに慣れる。 ・格言を読んで、ものの見方、考え方を広げたり深めたりする。	前期期末考査
9	故事	「助長」 「漁夫の利」 「虎の威を借る狐」	・訓読のきまりや漢文の基本構造を理解し、書き下しに習熟する。 ・故事成語を通して、古代中国人の考え方を知るとともに、漢文学習への興味を持つ。	
10	評論(一)	「ものづくり」 「語感トレーニング」	・論理的な文章の展開・構成を明らかにしながら、筆者の主張を的確にとらえる。 ・日本語の特性についての理解を深める。	後期中間考査
11	小説(二)	「羅生門」	・近代小説の名作に親しみ、場面や登場人物の心情の変化を表現に即して読み味わう。	
12	随筆	徒然草 「高名の木登り」 「奥山に猫またといふものありて」	・古文についての理解を深めるとともに、作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・随筆の文章表現の特色について理解する。	学年末考査
1	評論(二)	「水の東西」	・論理的な文章を理解する。 ・筆者の考えを、叙述に即して的確に読み取り、東西の文化の比較から日本文化の特色を理解する。	
2				